子どものチカラで商品開発/販売活動

『コヂカラコンサルティングproject』

KODIKARA NIPPON

NPOコヂカラ・ニッポンとは？

“企業や地域の発展”と“実践を伴った子ども教育” を同時に達成することを活動目的としたNPO法人。
子ども達と共に、商店街の活性化や地場の特産物をテーマとした商品開発などの活動を行っている。

コヂカラ・ニッポンの強み

1. スキル

子ども教育とビジネスを結び付けるスキルが豊富にあります。

①必要な知識を子ども目線でわかりやすく伝える

②子どもが主体的に継続的にプロジェクトに参加させる動機づけをする

③新しいアイディアを出しやすい環境を用意する

2. ネットワーク

全国にコヂカラを支援する仲間が500名以上存在します。

上場会社代表・経営者・コンサルタント・教師・議員
プロ講師・主婦etc

KODIKARA NIPPON
会員数：100名以上

Fathering Japan
姉妹団体：
ファザーリングジャパン
会員数：400名以上

3. 実績

コヂカラを発揮する環境を用意し、企業・行政に支援した実績多数あります。

第9回キッズデザイン賞受賞
未来を担う消費者デザイン部門

子どもと商品開発/販売促進

本プロジェクトは、商品開発と販売活動の主体者に子ども達を参画させることで、
売上拡大 と 社内の活性化 のふたつを実現する
今までにない コンサルティング です。

コンサルティングの流れ

STEP1［調査］	STEP2［開発］	STEP3［宣伝］	STEP4［拡散］
直接子ども達のインサイトを正確に把握	本音を商品に反映し「売れる商品」を開発	子ども達の参画がメディアに掲載	最も効率的なツールが使用され拡散

得られる効果

実施後 → 近い未来

「子ども教育」という社会貢献

今までにないアイディアを獲得

社内の活性化

メディアに多数掲載！

売上拡大！ファンの増加！

あなたの企業でも
子ども達のチカラを借りて
商品開発/販売活動を
実施しませんか？

CASE：商品開発～販売促進（HIROTA様）

子ども：小学6年生 ＋ コヂカラ・ニッポン：NPO法人 ＋ 大人：HIROTA Since 1924 市川市立行徳小学校

＜実績＞
農林水産省
フード・アクション・ニッポンアワード 2011 入賞
農林水産省
フード・アクション・ニッポンアワード 2012 入賞
農林水産省 フ
フード・アクション・ニッポンアワード 2013 入賞
小学生朝食選手権 金賞受賞
朝日パティシエ選手権 学校奨励賞受賞

STEP1・2 調査 開発

商品開発
- ●データ収集と分析
- ●商品企画・プレゼン
- ●●レシピの考案と試作
- ●●パッケージデザイン
- ●●レクチャー
- ●●プロジェクト運営

＜メディア紹介（一部）＞
2013年5月14日（火）日本農業新聞
2013年5月24日（月）産経新聞、行徳新聞、産経ニュース（web）
2013年5月24日（月）TBS ひるおび
2013年5月27日（木）日本教育新聞
2013年5月31日（金）日本食糧新聞
2013年6月1日（土）Ichikawa Yomiuri Online
2013年10月号 President Family

STEP3・4 宣伝 拡販

販売促進
- ●●販売戦略の立案
- ●販路の交渉
- ●商品販売許可
- ●●●メディア対応
- ●ラジオ出演
- ●イオン妙典店での実演
- ●地域祭りでの販売

・過去最高売上を達成
・社員の意欲・結束力が向上
・今でも人気商品

CASE：会議参画（学研教育出版様）

女子高生 ＋ NPO法人 ＋ 学研教育出版

会議に新しいアイディアを出し、イノベーションを起こしませんか？

会議参画
- ●レクチャー
- ●主旨・要望の説明
- ●アイディア出し
- ●事業企画・提案
- ●●プロジェクト運営

※新規事業計画の会議に参画

今、日本で手紙を書くのは祖父母世代か女子高生くらい

30年前くらいにはやった文具やおもちゃを私たちは新しいと思うかもしれない

LINEもやるけど、お誕生日とか気持ちをしっかり伝えたい時は手紙を書く

CASE：ファミリーデー/ＣＳＲ活動（NTTデータ様）

社員の子ども達 ＋ NPO法人 ＋ NTTデータ

ファミリーデーやCSR活動の一環で、一緒に企画しませんか？

ファミリーデー
- ●レクチャー（コヂカラMBA）
- ●アイディア出し、体験
- ●改善点など意見交換
- ●●プロジェクト運営

※実体験を含んだMBAの講義とワークショップを実施

普段学べない内容を勉強することができて楽しかった

自分で子どもの限界を決めつけず、いろいろとやらせようと思った

NPO法人『コヂカラ・ニッポン』

KodikaraNippon

NPOコヂカラ・ニッポンとは？

子どものチカラを借りて、企業や地域、家庭などが輝く。仕事や地域、家庭の場で大人に役立つことを通じて、子どもは伸びていく。この「子どもと大人の双方向性」により、“実践を伴った子ども教育”と、“企業や地域などの発展”という2つを同時に達成することが、当法人の活動目的です。大人向けキーワードは「子どものチカラを信じよう」、子ども向けキーワードは「自分のチカラを信じよう」。

＜概念図＞

子どもが得る効果

実社会に参画し、地域や企業の役に立つことを通じて、子どもは、次のような能力を伸ばすことが出来る。

やる気、自信、夢や希望、役に立っているという意識
自分で考え行動する力、考える力、伝える力、聞く力
協調性、多様性、論理力、行動力、学習意欲
そして、子どもだからこそのチカラ(コヂカラ)

コヂカラとは、斬新な創造力、好奇心、無邪気な視点、既成の枠にとらわれない発想力、工夫する精神、素直さ、不思議に思う心、あり余るエネルギーなど

子ども
小学生
中学生
高校生
大学生

実社会で「子どものチカラ」を発揮

例えば、
・地域：商店街の活性化、特産品の販売
・企業：新商品の開発、広告宣伝
・家庭：家事(お手伝いではなく主体者)

実社会での「教育機会」を提供

実社会
企業、地域
商店街(街)
家庭など

大人(企業、地域、家庭)が得る効果

得る可能性が高い

↓ 企業	地域 ↓
売上げアップ、仕事に役立つ、など	
将来の顧客拡大	子どもの愛郷心向上
社内の活性化	地域の活性化
社員の人材教育	異世代間交流
企業や地域の広告・宣伝	
「子ども教育」という社会貢献	

コヂカラ事業

事業名称	説明
コヂカラ コンサルティング	子どものチカラで商品開発/販売活動する。一例として、小学生考案の「お米のシューアイス」を、全国ブランド「ヒロタ」が商品化、同社で過去最高の売上げ達成。
コヂカラ 地方創生	子どものチカラで、地域を活性化する。一例として、沖縄県西原町で行政・大学・地元企業を巻き込み、地元の特産物をと東京都内で販売を実施。今までにない地方創生となる
コヂカラ農業	作付、収穫、商品開発、PR、販売なでの一連を子ども達が主体的に関与。 第一弾として、「子どもが考えた米袋」によるお米のPR・販売。
コヂカラ MBA	企業のファミリーデーやCSR活動の一環で実施。一例として、NTTデータ様のファミリーデーで、流通小売業のビジネスモデルを説明、課題解決ワークを通じて実践的な学びを提供。
コヂカラ スクール	子ども達が、放課後の時間を使って地域の課題を解決。解決のための手法を現役社会人(社長など)が実践教授。実践型 x ビジネス思考を学べるアフタースクール。

川島 高之
NPO法人コヂカラ・ニッポン ／代表
NPO法人ファザーリング・ジャパン／理事
小学校・中学校 (元)PTA会長
三井物産系の上場会社／社長

＜講演テーマ＞
イクボス、イクボス式教育、ワークライフバランス、子どもの自立、子どものチカラ、PTA、地域活動(イキメン)。子ども向け・大人向け共に可

講演依頼受付中！！あの元祖イクボスが登壇します！！

受託/メディア実績

＜受託実績＞
行政； 宮城県、神奈川県、川崎市、名古屋市、福岡県
学校； 早稲田大学、千葉大学、神奈川総合高校、中原中学校、自由学園、など
民間； 三菱商事、NTTデータ、ヒロタ、複数の商店街、学習塾、学童施設、その他多数

＜メディア実績＞
日経新聞、読売新聞、朝日新聞、産経新聞、東京新聞
AERA、プレジデントファミリー、NHK、TBS、フジTV、TOKYO FM、その他多数

AERAの「日本を突破する100人」に、当法人の活動と、代表の川島が選ばれました。また、PHP研究所から代表川島の単著「いつまでも会社があると思うなよ！」が、発売されました

法人概要

＜名称＞
NPO法人 コヂカラ・ニッポン(法人登記：2012年5月7日)

＜連絡先＞
(住所) 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア #1178
(Mail) info@kodikara.org
(HP) http://kodikara.org/
(FB) https://www.facebook.com/kodikara.nippon

＜代表＞
川島 高之(かわしま・たかゆき)
NPOファザーリング・ジャパン 理事、小・中PTA元会長
総合商社勤務(上場関係会社の代表取締役)

＜理事＞
安藤 哲也(NPOファザーリング・ジャパン 代表)
尾崎 えり子((株)新閃力 社長)
八坂 貴宏(office YASAKA 代表)
林田 香織(ロジカル・ペアレンティングLLP 代表)
中原 久子(Office Pleasant 代表)
櫛田 嘉代(みやぎ次世代教育協議会 理事)
小林 浩一
(日本メディアリテラシー教育推進機構 事務局長)

＜顧問＞
島 桜子
(一般社団法人チャレンジド・クリエイティブラボ 代表理事)